

## 厚労省「第3回 チーム医療推進方策検討ワーキンググループ」 病院薬剤師の病棟常駐化を提案

2010/12/10

「チーム医療推進方策検討ワーキンググループ」（座長：山口徹・虎の門病院院長）が12月9日に開催され、前回同様、委員からのヒアリングを行った。薬剤師や管理栄養士、リハビリテーション専門職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）、臨床心理士といった職種や、医療職団体などから構成される「チーム医療推進協議会」にかかわる委員たちが、チーム医療の在り方や現状について発表を行った。



国際医療福祉大学附属病院薬剤統括部長の土屋文人委員は、「チーム医療における薬剤師の役割」という題で発表した。病院薬剤師の業務変化について「以前は調剤業務だけだったが、現在は処方設計から副作用モニタリングまで広く求められている」と説明。薬剤師を病棟に常駐させれば、リアルタイムで医師らスタッフに情報提供やアドバイスができ、患者の変化にも気付くことができるなど、メリットが多いことを強調し、薬剤師が病棟に常駐していないことが薬薬連携の進まない要因になっているとした。

取出涼子委員（初台リハビリテーション病院教育研修局 SW 部門チーフ）は、チーム医療推進協議会の見解を発表した。医師・看護師も含め医療職をメディカルスタッフと呼ぶことを提案した上で、チーム医療の課題の1つとして「メディカルスタッフの人員不足」を挙げた。その解決には必要職種の明確化と適正配置が必要であるとし、職種別に配置基準案を提示。薬剤師については、現在5万人ほどいる病院薬剤師を全病棟に常駐させ、早急に人員を倍増させることが望ましいとしている。

### ■職種間のグレーゾーンの整理を

取出委員はまた、職種間の業務上に様々な「グレーゾーン」があることも問題であり、責任の明確化など医行為にかかわる業務内容の検討などが急務であると述べた。

そのため、ヒアリング後の質疑応答ではグレーゾーンが話題になった。原口信次委員（東海大学医学部附属病院診療技術部長）は、その一例として核医学検査における放射性医薬品の調製業務について現状を報告。本来、薬剤師が行うべき業務であるにもかかわらず、診療放射線技師が実施している場合が多いことを説明した。これを受けて、山口座長は「グレーゾーンについて議論するために、具体的な事例をどんどん挙げてほしい」と委員に求めた。

次回ワーキンググループは2011年1月7日に開催される予定。